

研修名 保育内容研修2 （プロジェクト型保育）

平成27年6月29日（月）10:00～16:00

講演 「プロジェクト型保育について」

「ドキュメンテーションの作成方法について」

講師 北野 幸子 氏



① 保育の今日的課題

- ・「知識」「技術」の習得のみではなく、「知識を活用する」「技術を使う」
自分で主体的に考える、疑問を持つ、判断する。これらの力を養うために、
子どもの興味、関心を起点に、知ることが楽しいと思えるような経験を保育
の中で取り入れる。
- ・自分で選んで決めたことは、子どもたちにとって自信になる。
例えば→保育の中で、絵を描く時…絵の具かクレパスか選んで決めるなど。

② 主体的な子どもを育む前提

- ・基本的信頼感は子どもの育ちの根幹になる。
- ・温かいまなざし（関心）、過度でない期待を持つ。
→基本的生活習慣、人間関係形成力、社会性、自己肯定感、学びの意欲
- ・信頼感に支えられ、人への基本的信頼感を培う。
- ・自分の力で行動することの充実感を味わうことで、意欲や態度が培われる。

③遊び≒学びの援助へ

- ・幼児の学びの特徴→「無自覚の学び」
- ・保育者の教育の特徴→「自覚的な援助」
- ・幼児期に好奇心、探求心、あこがれを育むことが児童期の学びへとつながる。

③ 専門職としての保育者にこれから求められるもの

- ・保育の独自性についての発信。（小学校の授業とは違う保育実践）
- ・保育専門職としての自負。（遊びからの学びの姿の可視化）

⑤ドキュメンテーションで伝えたいこと

- ・保育の前提（子どもたちが安心して過ごせ、社会性、情緒、知的な発達が保障されること）
- ・保育方法の独自性（「無自覚の学び」を保育者が自覚的に支え、子どもの主体性を尊重する）→環境を通じた保育
 - 1)環境構成の工夫（コーナー、遊具）
 - 2)プロジェクト型保育の工夫（教育的意図）
 - 3)好きな遊びの援助（言語化、気付き、共同）
 - 4)子どもの育ち（情意、知識、技術、応用力）
 - 5)子どもの育ちの見通し

⑥プロジェクト・アプローチとは

- ・ 小学校以降の教授型の教育とは違う方法で、保育独自の方法ではあるが、子どもは多くのことを学ぶ。
- ・ 子どもは自らの興味には、複雑で難しいことでも躊躇しない。
→過小評価せず、実践にプロジェクトの要素を加えていけばよい。

⑦ドキュメンテーションを作成するうえで、大切にしたいこと

- ・ できた、できないにならないよう、結果ではなく、過程＝プロセスを書く。
- ・ 子どもの興味や関心から、きっかけや起点を書く。
- ・ 保育の中の学びや育ちを見ようとする力、知ろうとする姿勢、遊びを通じた育ちへの理解と、保育専門職の社会性・重要性を保護者に啓発することが必要である。
- ・ 保護者は園のお客さんではなく、支援される対象（保育、子育てのパートナー）として関わる。

保育士という仕事は、「ただ子どもたちを預かってあそばせているだけ」と思われがちなので、子どもたちが遊びの中で、様々なことを学んでいるということを保護者に発信していくことが必要であるとわかった。今回の研修で、ドキュメンテーションという方法を教えてもらったので、取り組んでみたい。

（記録 社会福祉法人みねやま福祉会 ゆうかり子ども園 岡田梨央）

